

第3回中堅・中小企業等のDX促進に向けた検討会 議事要旨

1. 会議の概要

日時：令和4年3月14日（月） 13時00分～15時00分

場所：WEB開催

2. 議事要旨

(1) 討議

○ 手引きに関すること

- ・ 手引きは最初のバージョンに比べ、事例のストーリー性等は格段に良くなってきている。
- ・ 第2回検討会でも申し上げたことだが、手引きでは、経営理念、パーパス、ミッションとビジョンとの違いがわかるようにしてほしい。経営理念、パーパスという思いがあって、会社の状況認識に基づくビジョンがあり、ビジョンを実現するための方策が戦略であると考える。
- ・ 経営学の世界で言えば、パーパスというのはレゾナードール（その会社の存在意義）であり、そのパーパスに基づきビジョンを持ち、それに向かっていく具体的な計画を立て、計画遂行のための戦略を策定する、といった流れになる。パーパスというと、日本語では「目的」と訳されるが、経営の領域ではやや解釈が異なってくる。ここでいうパーパスとは、存在意義であり、そこからビジョンが生まれてくる、そうしたポイントを押さえてもらえれば、ストーリーも書きやすくなると思う。
- ・ 目次の部分に事例掲載企業の業種を記載するべき。読者はどうしても自分に関係する事例を読みたいと思うので、すぐに見つけられるようにしてあげた方が良い。
- ・ 事例の記載が点在していたところをかなり整理してもらい、読み手にとっては見やすくなったと思う。
- ・ この手引きを読んで活用したいと思ったときに、どこにアプローチしたら良いのかという、伴走者や支援者等のアプローチ先についても記載した方が良い。
- ・ 2～3年前に中小企業向けにIT経営推進のパンフレットを作ったが、パンフレットを読んだ後、読み手がどこに相談するかを示したほうがよいという話になった。中小機構、よろず支援機関、ITコーディネータ協会、商工会議所、商工会、中小企業振興公社など、中小企業向けの相談窓口の一覧をつけたことで、そこに相談するケースが多く見られた。
- ・ ただ支援機関の棚に置いていてもあまり効果はない。一番効果的なのは、経営者向けのセミナー会場で配ること。わざわざ支援機関等に出向いて冊子を手取るケースは少ないだろう。ネットでダウンロードする、ニュースリリースからのリンクを張る、商工会議所などのセミナーで渡す、といった方法で、届け方も工夫していくと良いかと思う。
- ・ 手引きは単に支援機関の窓口置くだけでは広がらない。人的なネットワークをうまく

活用していく必要がある。地域によってどこが中心になっているか、誰がキーになるのかを踏まえる必要がある。地域によって広げ方の違いが出てくる可能性もある。

- ・ 手引きの表紙は、手に取ってもらいやすいデザインにすることも必要。経営者の印象、目に入った瞬間にこのようなものであると分かるような表紙であればよいと思う。
- ・ 支援機関側もDXの知識が豊富な職員ばかりではないので、勉強が必要である。本手引きが、そういった支援機関の職員向けの導入ガイドにもなれば良い。

○ DXセレクションに関すること

- ・ 応募状況を踏まえ、優良事例の選定について議論を行った。

(2) 今後の進め方

- ・ DXセレクションの表彰式は3月24日に開催することとなった。
- ・ 手引きについては、本日のご意見も踏まえ急ピッチで作業を進めていく。公表前には、適時委員にもご報告をさせていただく。

お問合せ先

商務情報政策局 情報技術利用促進課

電話：03-3501-2646